

二〇二二年 十月

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

今月の言葉

見えないところがほんものにならないと、

見えるところもほんものにならない

東井義雄

私たちの日常を振り返ってみると、人が見ている時は頑張って取り組むことが出来ても、人が見ていなければ気を抜いてしまうことはあるのではないのでしょうか。どんな場面でも自分の力を精一杯発揮しようとする姿は本当に美しいものだと思います。勉強・クラブ活動など学校生活で問われる場面は多々あるはずですが、きつとクラスや学年、クラブ活動等でキラリと光っている人は、人が見ていないところで人一倍努力を重ねているはずです。見えないところが本物になるように、この言葉を日常の教訓として精進していきたいですね。

今月の聖語

あたかも、母が己の独り子を命を賭けても護るように、
そのように一切の生きとし生けるものどもに対しても、
無量の慈しみのこころを起こすべし。

『スツタニパータ』

釈尊は、雨期になると弟子たちと共に「安居」を行いました。「安居」とは、インドには三・四ヶ月の雨期があり、その期間は外に出歩かずに一ヶ所に定住し、学問や修行に励むことです。理由は雨が降ることによって大地に水が染み渡り、新たないのちが芽生え生長する時に動植物を踏みつけて殺生しないためです。ここでもわかるように釈尊は多くのいのちを大切にしました。

私たちの日常はどうでしょうか。いのちあるものを大切に出来ているでしょうか。釈尊のように生きることには難しいことかも知れませんが、この言葉から考えさせられることはあると思います。まずは、身近な人を大切に出来ているか自分自身を見つめ直してみましよう。

合掌

宗教教育係